

IMF サーベイ

世界経済見通し

見通しは徐々に改善するも、
依然として脆弱

IMF サーベイ・オンライン

2012年4月17日



イタリアの自動車組み立て作業員：世界経済の見通しは、欧州に起因するリスクに引き続き覆われている。（写真: Giorgio Benvenuti/Reuters）

- 2012年の世界経済の成長率は**3.5%**、来年は**4.1%**まで回復する見込み
- 欧州や原油に起因するものなど、リスクは引き続き高い
- 新興市場および途上国は、比較的良好

国際通貨基金（IMF）は最新の報告書の中で、世界経済の見通しは、再び徐々に改善しているが、なかでも欧州において成長は弱く、多くの先進国・地域で失業率は今後も高い状態が続くだろうと指摘した。

欧州などの政策担当者が採った措置が脆弱性の軽減に寄与したものの、原油市場に影響している地政学的不透明性に加え、欧州で新たな危機が発生するリスクが大きく立ちはだかっている。

実質 GDP 成長率は、2012年の前半に底を打ってから、米国に改善の兆しが見られ新興市場国・地域が引き続き下支えに貢献するなど、2012～2013年で次第に持ち直すと考えられる。IMFは、米国の今年および来年の見通しを、2011年の**1.7%**から、それぞれ**2.1%**と**2.4%**へ引き上げた。また、ユーロ圏の見通しも、1月の予測を若干上方修正した。しかし、ドイツとフランスはプラス成長の可能性があるが、巨額のソブリン債と財政健全化をめぐる懸念が大きく影響し、ユーロ圏は穏やかな景気後退局面に入ると予測している。

一方、昨年甚大な被害をもたらした地震と津波からの回復軌道にある日本は、**2%**まで回復すると見られる。

ワシントン DC での IMF と世界銀行の[春季会合](#)を控えた4月17日に発表した、2012年4月の世界経済見通しの中で IMF は、世界経済の成長率は、総じて2011年の約**4%**から今年**3.5%**に落ち込むものの、来年には**4.1%**に回復するとの予測を示した。

激変する情勢

オリビエ・ブランシャール IMF チーフ・エコノミストは「これまで6ヶ月間、我々は非常に浮き沈みが激しいなかにあった」と述べた。「我々のベースライン予測では、先進国・地域の成長は鈍化する一方、新興市場および途上国・地域の成長は、著しくはないものの持続する。しかし、欧州の情勢が再び悪化するリスクは高い」

IMF のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、先週ワシントンの[シンクタンク](#)で行った[演説](#)のなかで、最近の欧州の措置は経済情勢の改善につながったものの、見通しは依然として脆弱であると述べた。

IMF は現在、新たな危機が発生した際の経済的波及を封じ込めるため、追加的財源の必要性を強く訴えている。

政策措置の継続が必要

ブランシャール氏は報告書の総括のなかで「防火壁の構築が完成したとき、大きな進歩を遂げることになるだろう」と述べたが、同時に、防火壁のみでは、一部の苦境にある国々が抱える財政や競争力、成長に関する困難な問題を解決することはできないだろうと指摘した。

同報告書で IMF は、弱い回復を強固なものとし消費者および投資家の信認に重くのしかかる潜在的リスクを封じ込めるため、各国政府は政策を強化すべきだと述べた。

先進国・地域は、中期的予算節約に取り掛かるべきだが、回復を損ねるような手法を選択すべきではない。一方、新興市場および途上国・地域では、与信の伸びが引き続き非常に力強い国々のソフトランディング（軟着陸）に、政策の焦点を絞るべきである。

地域別見通し

同報告書は、地域別見通しを以下の通り発表した。

- **北米。** 米国の成長率は、財政健全化策が進められているとともに住宅価格の低迷が続いていることを受け、2012年は2.1%、来年は2.5%となる見込みである。カナダは、僅かに鈍化し約2%となるだろう。
- **アジア。** 外需の鈍化によりアジアの見通しが悪化した。しかし、中国の内需が底堅く、金融面の波及効果は限定的であり、政策緩和の余力があり、またアジアの銀行が欧州の銀行のレバレッジ解消に介入する能力があることが、

現在進んでいるソフトランディングが、今後も続く可能性があることを示している。総じて、アジアの成長率は、中国が 8.2%、インドが 6.9%へと減速するなか、平均 6%となる見込みである。

- **欧州。**ユーロ圏の実質 GDP は、2012 年前半に縮小し、その後、スペイン、イタリア、ギリシャ、およびポルトガルを除いて回復を始めるだろう。一方、これらの国々は、2013 年になりようやく回復が始まると考えられる。ユーロ圏以外の先進国・地域の多くは、危機前に不均衡を回避したことが、ユーロ圏からの波及効果の緩和につながった。しかし、世界危機の影響を強く受けた金融部門を抱えるイギリスは、2012 年はじめは低調な成長となろう。欧州新興国・地域の成長は、今年、ユーロ圏との経済および金融の強い結びつきを背景に急減速し、1.9%となると予測される。欧州全体では、2012 年は 0.2%、来年は 1.4%となる見込みである。
- **ロシアおよび独立国家共同体。**今年、国際商品価格は引き続き高い水準で推移するものの、欧州への輸出の減速と一部の国による政策の引き締めにより、成長は鈍化するだろう。全体の成長率は、4.2%まで縮小する見込みである。
- **ラテンアメリカおよびカリブ諸国。**今年は、3.75%まで鈍化するものの、その後 2013 年には 4%強にまで回復するだろう。景気過熱リスクは、低下したものの、資本フローが再び活発となり為替相場に圧力がかかるようなことになれば、再燃する可能性もでてこよう。
- **中東および北アフリカ。**同地域の原油輸入国の成長は、原油の高価格、同地域の社会不安による観光の不振、欧州の現下の情勢に起因する貿易の低迷と送金の減少などにより抑制されたものとなろう。原油輸出国については、イラン・イスラム共和国の情勢の悪化は、イラクとサウジアラビアの原油生産の拡大およびリビアの回復により相殺されよう。地域全体では、原油の高価格に産出国が後押しされ、2012 年は 4.2%の成長率が見込まれるが、インフレは平均で 9.5%となろう。
- **サブサハラアフリカ（サハラ以南アフリカ）。**同地域の成長率は 2012 年には 5.4%まで回復するだろう。世界経済の減速の影響を比較的受けていないものの、ユーロ圏の問題の伝播と無縁ではない。鈍化を続ける欧州と貿易と金融の連関性がより強い南アフリカは、標準以下の成長と高失業率に悩まされている。

IMF最新見通し

2012～2013年に、実質GDP成長率は次第に回復するも、欧州や原油に起因するものなどリスクは引き続き高い状態に。

(変化率 %)

	2010	2011	見通し		2012年1月のWEO 見通しからの変化	
			2012	2013	2012	2013
世界経済成長率	5.3	3.9	3.5	4.1	0.2	0.1
先進国・地域	3.2	1.6	1.4	2.0	0.2	0.1
米国	3.0	1.7	2.1	2.4	0.3	0.2
ユーロ圏	1.9	1.4	-0.3	0.9	0.2	0.1
ドイツ	3.6	3.1	0.6	1.5	0.3	0.0
フランス	1.4	1.7	0.5	1.0	0.3	0.0
イタリア	1.8	0.4	-1.9	-0.3	0.2	0.3
スペイン	-0.1	0.7	-1.8	0.1	-0.2	0.4
日本	4.4	-0.7	2.0	1.7	0.4	0.1
イギリス	2.1	0.7	0.8	2.0	0.2	0.0
カナダ	3.2	2.5	2.1	2.2	0.3	0.2
その他の先進国・地域	5.8	3.2	2.6	3.5	0.0	0.1
新興工業経済地域(アジアNIEs)	8.5	4.0	3.4	4.2	0.1	0.1
新興市場および途上国・地域	7.5	6.2	5.7	6.0	0.2	0.1
中央および東ヨーロッパ	4.5	5.3	1.9	2.9	0.8	0.5
独立国家共同体	4.8	4.9	4.2	4.1	0.5	0.3
ロシア	4.3	4.3	4.0	3.9	0.7	0.4
除ロシア	6.0	6.2	4.6	4.6	0.2	-0.1
アジア途上国	9.7	7.8	7.3	7.9	0.0	0.1
中国	10.4	9.2	8.2	8.8	0.1	0.0
インド	10.6	7.2	6.9	7.3	-0.1	0.0
ASEAN-5 ¹	7.0	4.5	5.4	6.2	0.2	0.6
ラテンアメリカおよびカリブ諸国	6.2	4.5	3.7	4.1	0.2	0.1
ブラジル	7.5	2.7	3.0	4.1	0.1	0.1
メキシコ	5.5	4.0	3.6	3.7	0.1	0.2
中東および北アフリカ(MENA)	4.9	3.5	4.2	3.7	0.6	-0.2
サブサハラアフリカ	5.3	5.1	5.4	5.3	-0.1	0.0
南アフリカ	2.9	3.1	2.7	3.4	0.1	0.0

出所:2012年4月、IMF世界経済見通し

¹インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム